

小学校の周年行事に向けた  
音楽を中心とする多教科連携型カリキュラムの実践と成果  
—「文化庁 文化芸術による育成事業—コミュニケーション能力向上事業」を通して—

平井 李枝

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第5号 別刷

2018年8月3日



# 小学校の周年行事に向けた 音楽を中心とする多教科連携型カリキュラムの実践と成果<sup>†</sup>

—「文化庁 文化芸術による子供の育成事業—コミュニケーション能力向上事業」を通して—

平井 李枝\*  
宇都宮大学教育学部\*

本研究は、小学校の周年行事に向けた音楽を中心とする多教科連携型カリキュラムの実践と成果を通し、音楽の重要性とその効果について多角的に論じたものである。筆者は、「文化庁 文化芸術による子供の育成事業—コミュニケーション能力向上事業」の芸術家講師として、東京都八王子市立横山第一小学校の6年生を対象に、創立120周年記念式典に向けた音楽活動の指導を行った。校歌の歌唱指導及び愛唱歌の作曲を行い、式典での成果発表までの軌跡をたどりながら、子供のコミュニケーション能力を向上させる音楽活動と多教科連携型カリキュラムの成果について述べた。

キーワード：小学校、音楽、多教科連携、周年行事

## 1. はじめに

本論文は、小学校の行事における音楽活動に関する取り組みについて、子供のコミュニケーション能力を向上させる目的により実践を行い、その成果から音楽という教科の可能性について論じるものである。

筆者はこれまで数多くの小中学校において芸術鑑賞コンサートの開催や、学校行事等における音楽活動の指導や支援などに関わってきた。また学校教育における音楽の役割と多教科連携の可能性についても考察してきた。小学校では学校行事において、音楽活動がその行事の中心的役割を担うものが多くみられることから、学校行事への取り組みにこそ、音楽が多教科と連携し、その存在価値を高める活動ができるのではないかと考えた。

そこで、本論文では筆者が平成29年9月から11月にかけて「文化庁 文化芸術による子供の育成事業—コミュニケーション能力向上事業—」により東

京都八王子市立横山第一小学校6年生を対象に行った教育活動実践をもとに、学校行事における音楽活動と多教科連携の成果とその意義について論じることにした。

## 2. 経緯

筆者は平成28年11月に東京都八王子市立横山第一小学校校長 青木利夫氏から平成29年度創立120周年記念式典について、記念演奏会と120周年記念愛唱歌作曲の依頼を受けた。これは筆者が数多くの小中学校の創立記念式典において記念演奏会や記念歌作曲に携わっていることから、同校でも同様に式典を実施したい旨、他校からの人脈を頼りに筆者に連絡したとのことであった。青木校長との協議の結果、これまで筆者が作曲を担当した他校の愛唱歌の作詞は当該校校長によるものであったが、横山第一小学校では児童の心に残る活動との目的から、卒業年度生である6年生児童(1組～3組、すみれ学級(特別支援学級))の計90名で作詞することにした。

そして、歌詞の制作および120周年記念式典での発表に向けた取り組みについて、その制作過程のワークショップおよび歌唱指導等、120周年記念行事に向けた取り組みを筆者が「文化庁 文化芸術による子供の育成事業—コミュニケーション能力向上事業—」の芸術家講師として指導することとなった。

<sup>†</sup>Rie HIRAI\*: Musical activity and accomplishment in collaboration with other subjects in occasion of anniversary ceremony at an elementary school

Keywords: Musical activity, Music, elementary school, communication

\* School of Education, Utsunomiya University  
(連絡先: rie@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

同事業は学校申請方式によるもので、文部科学省初等中等教育局が採否を決定する。

事業の趣旨を以下に挙げる。

「文化芸術の振興に関する基本的な方針—文化芸術資源で未来をつくる—（第4次基本方針（平成27年5月22日閣議決定）」においては、「全ての子供や若者が、学校や地域において本物の文化芸術に触れ、豊かな感性や創造性、コミュニケーション能力を育む機会を充実することにより、次代の文化芸術の担い手や鑑賞者を育むとともに、心豊かな

子供や若者の育成を図る」ことを重点戦略に位置付けている。このことを踏まえ、児童生徒に対し、芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等の指導を実施することにより、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うとともに、児童生徒のコミュニケーション能力の育成のために本事業を行う。<sup>注1</sup>

また事業内容は「本事業を実施する小・中・高等学校等（以下、「実施校」という。）に対し、教育的手法に精通した芸術家を派遣し、実施校の担当教員と芸術家が連携を図り、児童生徒を対象に、芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を取り入れた教育活動を支援する。<sup>注2</sup>

上記の事業内容及び目的が、横山第一小学校での教育活動目的と合致しているため、応募し採択された。そして平成29年9月から11月にかけて全9回の日程で筆者が同校を訪問し指導を行うこととなった。

実施校が所在する八王子市は平成29年に市制100周年を迎え、また学校は創立120周年の節目とのことで平成29年度には校内の重要な取組として、児童に郷土や自校についての調べ学習など具体的な体験活動を通して、郷土愛や母校愛の醸成を図っていた。

同校では、周年行事への取組を進める中で、『校歌』の作曲者である平井康三郎の直筆の楽譜等や、創立70周年の際に作成された校歌のソノシートが発見された。ソノシートは校長室の金庫に保管されていたが、再生装置がないため、音源としての機能はたしていなかったが、地域へ支援を呼び掛けたところ、ソノシート再生装置 日立製MQ-20が学校に届けられることとなった。横山第一小学校に対する、地域の思いと学校と地域社会の良好な絆を象徴する事例である。また周年行事に関して、子供たち

の心に残る音楽活動を実施してほしいとの強い熱望が卒業生・地域より寄せられ、音楽活動が中心となる式典発表を企画することとなった。



写真1 ソノシート再生の様子

### 3. 指導計画

#### 『未来につながる わたしたちの愛唱歌を創ろう』

音楽を中心とする活動であるが、この取り組みを多教科連携型カリキュラムと位置づけ、音楽、国語、社会、体育、図工の各教科と有機的なかかわりを持たせた。また子供たちの自発的な活動を支援し、本事業の目的であるコミュニケーション能力の向上を目指し、グループ活動やアクティブラーニングも積極的に取り入れた。

- 第1回 講義 校歌の歴史を知ろう・歌いやすい歌詞を作るために
- 第2回 ワークショップ 愛唱歌の歌詞をグループで考えよう
- 第3回 ワークショップ 愛唱歌の題名を考えよう
- 第4回 歌唱指導・ワークショップ 愛唱歌に合う振付を考えよう
- 第5回 ワークショップ 愛唱歌の振付のグループ

発表

第6回 歌唱指導 校歌の2部合唱および愛唱歌の歌唱指導

第7回 5年生との合同活動 表現力を高めるための歌唱活動

第8回 5年生との合同活動 120周年記念行事の発表に向けたリハーサル

第9回 120周年記念式典 活動発表 校歌・愛唱歌発表

すべての回に学級担任、音楽専科教諭、校長、副校長が立ち合い、日々の授業との連携を図った。

#### 4. 実施内容

##### (1) 第1回 校歌の歴史を知る～作詞者・作曲者について

第1回は校歌の歴史を知るという目的で筆者による講義を行った。東京都八王子市立横山第一小学校（通称 横一よこいち）の校歌は、作詞 勝承夫、作曲 平井康三郎により昭和39年2月に制定された。筆者の祖父が作曲者の平井康三郎であることから、作曲家の人生について祖父の例を子供たちに講話した。平井康三郎は戦後の日本音楽教育を牽引した人物で、NHK「みんなのうた」の作曲や音楽の教科書編纂を行っていた。作詞者の勝承夫氏との出会いも文部省の教科書編纂委員からであった。

筆者は子供たちに作曲者の業績なども詳細に解説したが、恐れ多い存在と認識したようである。そこで、祖母との出会いや恋の話をしたところ、子供たちが興味津々となり、身を乗り出して聞き入っていた。恋の話は、平井康三郎を子供たちにとって親しみやすい存在に変えた。

作詞者の勝承夫氏と平井康三郎の関係として、二人が学校近くの料亭を好んでいたエピソードなども交えながら、楽曲などの紹介も行った。勝承夫氏は《こぎつね》、《気のいいアヒル》など子供の歌の作詞で知られており、これらの作品を歌唱することで、子供たちにとって身近に感じられる偉人となった。また平井康三郎については《とんぼのめがね》《スキー》《平城山》などを紹介した。勝承夫と平井康三郎の作品からは、《そうだん》を紹介した。

愛唱歌の歌詞を作ることを前提に、校歌の歌唱指導を行い、歌詞を朗読し、児童に復唱させる方式により、校歌の歌詞の特徴を考えさせた。また《そうだん》の歌詞も同様に朗読させ、特徴を考えさせた。

その結果児童らから7つと5つの文字の組み合わせから歌詞ができているとの答えを導き出すことができた。

愛唱歌の歌詞づくりにむけて、学校の良いところ、学校から見える風景の素敵など、未来（後輩）に伝えたいことをテーマにキーワードを考えることを次回までの課題とした。キーワードは子供たちが校歌や《そうだん》の歌詞から導き出した7音および5音とし、すべて平仮名で、各自5つずつキーワードをワークシートに記入することを目標とした。ここでのルールとして「良いところ・素敵など」を考える点を強調した。一例として子供たちから挙げられた「古い校舎」は「伝統のある校舎」などに言い換えるなどのヒントを与えた。そしてこの課題は各クラス担任に引き継ぎ、国語および社会の授業との連携を図った。



写真2 第1回 講義の様子（写真中央 筆者）

##### (2) 第2回 ワークショップ 愛唱歌の歌詞をグループで考えよう

第1回の実施後、各クラスにおいて担任の指導により愛唱歌のキーワードを考えさせた。そして第2回実施までに筆者に90人分のワークシートを郵送してもらい、キーワードを分類し一覧表を作成した。

第1回の校歌に関する筆者の講話と、学校の良いところ探しにより、愛校心が高まったようであった。6年生から集約したキーワードは、学校（そのものに関するもの）、毎日（学校での毎日生活）、横一の子（学校での子供たちの様子）、季節、行事、風景の6種類に分類できた。ここでのキーワードの特徴として、7音もしくは5音の言葉との制限を設けたため、学校そのものに関するキーワードは固有名詞が多数を占めた。また風景などに関しては、校歌の



歌詞に由来するものが多く見られた。しかし学校生活に関わるもの、また「横一の子」子供たちの様子に関するキーワードには、助詞・助動詞・接続詞を用い、7音および5音を作り出していることが明らかになった。

第2回目は、体育館で実施し、各自で考えたキーワードをもとに、それを組み合わせて歌詞を考えることを目標とした。体育館での活動には、グループごとのアクティブラーニングを円滑に行いつつ、90名すべての子供たちを平等に指導するねらいがあった。

まず筆者が作成した「キーワード一覧」を配布し、それを見ながら、ほかの児童がどのように考えているかを確認することとした。一覧の配布により、学校の良さを再認識したり、新たなキーワードを思いついたり、気づきや発想の違いを認識することで語彙力を向上させる効果が見られた。

そしてグループ活動として、前述の一覧表を参考にキーワードをつなげて、7音と5音の組み合わせを考えることを課題とした。時間内での発表を前提に、模造紙に7音と5音をあてはめられるよう枠を設け、油性マジックを配付し、グループ活動の成果

を残せるようにした。

アクティブラーニングの時間を10分間と決定し、グループでの活動を開始させた。筆者および教員はそれぞれのグループを回り、進捗状況を確認したり、ヒントを与えたりする役割を担った。

グループ活動の終了後、出来上がった言葉を発表しあった。ここでは良いところを認めるということテーマに、それぞれの発表に対し子供たちが評価を行った。



写真3 歌詞のワンフレーズを考えるグループ活動

横山第一小学校 120周年を記念して愛唱歌を作ろう!【6年生のキーワード】							
学校	毎日	横一の子		季節	行事	風景	
ゆたかながっこう	クラスのふんいき	しょうがくせい	きょうしつきれい	たすけあい	さくら	にゅうがくしき	ゆたのがわ
ひろいこうてい	あかるいクラス	ともだち	じどうみまもる	ゆずりあい	くさばなが	りにんしき	たかおざん
こうしゃのれきし	しずかなクラス	いちねんせい	げんきにとうこう	たのしく	はなばたけ	そつぎょうしき	たかおさん
おおきなこうしゃ	きょうしつ	らんぞせる	きをつけこう	やさしく	めだか	てんらんかい	はちおうじ
きたこうしゃ	べんきょう	みんななかよし	けんかもするけど	たくましく	うたうとり	うんどうかい	しげんがゆたか
みなみこうしゃ	こくばん	まいにちえがお	すくなかなおり	みんなでさかさ	どりのさえずり	がくげいかい	かわのおと
でんとうおおく	こくばんごく	ニコニコえがお	ともだちいっぱい	ゆめのはな	はるのそら	じきゅうそう	かぜがふく
プール	ろくのいち	げんきもりもり	やさしいともだち	よこいちだましい	かぜそよぐ	よこフェス	あおいそら
ブルピカピカ	ほん	きゅうがくせい	えがおだね	げんきいっぱい	とりもピヨピヨ	いいんかい	ゆたかまち
あたらしいプール	おもいでいっぱい	きんちょうする	えがおあふれる	おにごっこ	たのしくラララ	くらぶかつどう	きれいなやま
はとどけい	まいにちそうじ	わらいあふれる	おおなわとび	きぼうがたくさん	ひまわり	よこいちおんど	やまがたくさん
ひどけい	うたうたう	うたうたう	たいやとび	げんきなあいさつ	あさがお	よこいちソーラン	みどりゆたかな
たいいくかん	そとあそび	ゆたかかだな	たくさんあそぶ	あかるいみらい	プール	ひなんくんれい	はちおうじじょう
たいいくそうご	おいしいきゅうしょく	だんじよなかよし	ひとりぼっち	かがやくえがお	なつやすみ	よこいちタワー	きびしいしげん
よこいちしょう	よじかんめには	なかがいい	つまらない	てをとりあって	およげるよ	しぎょうしき	てんぐのくらす
ゆうぐたくさん	きゅうしょくの	みんなでつなぐ	みんないっしょ	ぼくらのおもいで	せみのこえ	くみたいそう	むさしのくにの
ジャングルジム	かおりただよう	たからもの	しあわせだ	いじめない	いちよう	ちようかいのあさ	じんばさん
ひどけい	きたこうしゃ	たてをつなぐ	ゆめにむかって	けじめあり	パンジー	どくしょしゅうかん	ほうじょうし
うんてい	みんなでたべる	キラキラ	さあいこう	めでたいな	うめのはな	あいさつカード	しげんかこまれ
ともだち	きゅうしょくは	きょうもニコニコ	うつくしく	いきいきと	しゅんかしゅうとう	さむさもとぶよ	あたらしくいき
こうちようせんせい	いつもたのしみ	なかよし	いっしょうけんめい	しょうじきに	しょくぶつ	じきゅうそう	テングッド
せんせい	のこさずたべる	あさびがてらす	がんばるぞ	おもしろい	どうぶつ	ポカポカシャワー	ものがたり
おひるのほうそう	ひかりがさしこむ	かつきにぎわう	なかがよし	ゆめいっぱい	うぐいすピヨヨ	いきかえる	けんおうどう
なかにわのいけ	よじかんめには	わらいごえ	あそんで	ゆめのみち	めだかすいすい	ゲームしゅうかい	ケーブルカー
きれいなかだん	おなかなる	おんなこえ	チャレンジだ	まなびあひ		ぎょうじたくさん	はちおうじのこ
	ボールコロコロ	たのしいび	きょうりよししょう	ありがとう		ぼくのおもいで	
おんがくしつ	おかわりタイム	こせいどくとく	みんなのこえ	がんばって			
としょつ	きゅうしょくやったね	こどもたち	しせいがいよい	よくあそぶ			
きゅうしょくしつ	よくたべる	みんななかよし	みぎがわつこう	よくまなぶ			
こうちようしつ	オンオフしつかり	えがおほじける	せいけつに	よこいちみらいの			
しょくいんしつ	じゅぎょうちゅう		てをあらう	にほんのちから			
ほけんしつ	われるとあぶない						
	ぎゅうにゅうびん						
	えんぴつのおと						
	やすみじかん						
	じかんわり						

表1 120周年を記念して愛唱歌を作ろう (6年生のキーワード)

### (3) 第3回 ワークショップ 愛唱歌の題名を考えよう

第2回の終了後、子供たちが考えた歌詞を筆者が持ち帰り、歌にふさわしいように組み合わせた。

作曲にあたっては、子供たちからの要望である「一年生も歌いやすいように、楽しく踊れる曲」を目標にした。一年生でも覚えられるように、楽曲の形式は2部形式とし、A-A'-B-B'にした。1番の歌詞には学校の歴史を学べる歌詞ということで、青木校長からの案を採用し、楽曲にふさわしいように組み替えた。2番の歌詞に子供たちが考えた歌詞を組み込んだ。

第3回のワークショップでは、筆者が作曲したメロディーを発表し、子供たちが歌いやすい音域かどうか、実際に歌唱指導を行いながら検証した。その結果、問題がないことを確認し、歌詞を配付し歌唱練習指導を行った。そして、第3回のテーマである愛唱歌の題名を考えるためにグループでの話し合いをさせた。楽曲にふさわしい題名をグループで話し合いし、それぞれ発表するというものである。ここでのアクティブラーニングは10分間言い、活発な話し合いがもたれた。筆者および教員は各グループを巡回し、ヒントを与えたり進捗状況を確認するなど支援を行った。

この時筆者が工夫を凝らした点は、楽曲の題名話し合いの目的でのアクティブラーニングであるため、愛唱歌のメロディーをBGMとして流し続けたことにある。これにより、子供たちが楽曲に親しみ、歌詞を見ながら歌い、題名を考えることが円滑に行われるようになった。10分経過ののち、ホワイトボードに各グループが考えた題名を記入させた。自信を持って記入する姿から、子供たちはそれぞれグループで有意義な話し合いを持てたことがうかがえた。

たくさんの題名が記入されたため、決定方法について子供たちに尋ねたところ、先生たちの意見も聞きたいとのことで、教員間での話し合いで最終決定することで合意を得た。



写真4 グループで話し合った題名をホワイトボードに記入

### (4) 第4回 歌唱指導・ワークショップ 愛唱歌に合う振付を考えよう

第4回は愛唱歌の歌唱指導と、歌に合う振付を考えることの2点を行った。まず愛唱歌は第3回の活動をふまえて題名を発表した。子供たちからの提案で最も多く、また教員間において一致して推薦された「ゆめのはな」となった。これは120周年記念のキャッチフレーズである「夢の花 みんなで咲かせる 横一小」に由来するものである。

題名が決定し、歌唱指導を行った後、子供たちの要望である「歌って踊れる愛唱歌」を創り上げるため、振付を考える活動を行った。ここでもグループ活動を基本とし、体育館を広く使い体を動かしながらの活動を行うこととした。ここでの活動に対する工夫は、歌いながら活動が行えるように、筆者が事前に録音した愛唱歌のCDをリピート再生したことである。これにより、自然に楽曲を覚え、リズムにのって活動ができると考えた。しかし、子供たちは床に座り、楽譜を見ながら話し合う姿が多くみられたため、筆者および教員が振付の見本を見せることにした。それをきっかけに、子供たちが自発的にダンスのステップや手の振りを考え体を動かすようになった。アクティブラーニングに進展が見られないときには、教師からの手本やアドバイスが以後の活動に高い効果を発揮することを証明する事案である。

グループ活動の成果発表は、ワンフレーズでも良いので出来たところまで見せ合うということにした。各グループが愛唱歌に合わせて、自分たちが考えた振付を発表し、他のグループがそれを肯定的に

評価した。子供たちの振付に見られた特徴は、歌詞にとらわれ手の振りが言葉を表すジェスチャーのようなものになってしまうことにあった。

しかし、話し合いの中で、「1年生から6年生までが楽しく踊れる」という目標を思い出したようで、ジェスチャーによる振付は、1番と2番の歌詞が異なるため振りも変えなければならないことに気付いた。そして、振付については、次回までに有志が続きを考えることとし、踊りを覚える活動は体育との連携を図ることにした。



写真5 振付を考えている様子

#### (5) 第5回 ワークショップ 愛唱歌の振付の発表および歌唱練習

第5回は愛唱歌《ゆめのはな》の歌唱練習および振付練習を行った。歌唱指導は筆者が行い、振付は子供たちの主体的活動とした。振付は第4回実施後、6年生から有志が集まり、振付を考える委員会を発足させた。そして休み時間や放課後等を利用し、自主的な活動のなかで振付を創り上げた。ここでは第5回では有志メンバーがリーダーシップを発揮した。メンバーが体育館の舞台上がり、筆者のピアノ伴奏に合わせながら、ワンフレーズずつ見本を見せ、反復しながら学年全体で振付を覚えた。

踊っている様子をビデオで撮影し、それをプロジェクターで再生することで、ダンスのメリハリなどを客観的に評価しながら技能の向上を目指すための意見を出し合うことができた。



写真6 振付を教え合う様子 (ピアノ：筆者)

#### (6) 第6回 歌唱指導 校歌の2部合唱および愛唱歌の歌唱指導

第6回は記念式典で歌唱する校歌について、2部合唱の完成度を高め、表現力に磨きをかけるための歌唱指導および、愛唱歌の歌唱指導を行った。

校歌は作曲者の目指した歌唱法を再現するために、創立70周年当時の校歌の録音と比較しながら指導をおこなった。創立70周年記念に録音されたソノシートから再生される校歌は、歌詞が明瞭で音程もリズム感も非常によく、子供らしい生き生きとした2部合唱となっている。この録音に関する歌唱指導には、作曲家自身が関わっていたため、これを手本とすることにした。

校歌の歌唱指導では、自分たちの歌唱を客観的に評価しながら、技能を向上させる方法を用いた。筆者が録音機とスピーカーを持参し、子供たちの歌を録音し、それを再生し、子供たち自身で評価させることが、短期間での歌唱力の向上に効果があると考えたからである。実際、子供たちに歌ってもらい、録音を聞かせずに歌った印象で評価させたところ、肯定的なものが非常に多かった。しかし、録音をとって再生を聴かせると、神妙な面持ちで聴き入っており、その後評価させると、「思ったよりもずいぶんと下手だった」など自分たちの歌唱力を過大評価していたことに気づいたようであった。そこで、筆者が「どのようにしたら良くなるかを考える」という課題を与え、発表させた。

自分たちの歌唱を録音を通して客観的な評価を行うことで、課題とその解決方法を考える力を育てることができる。また発表時には言葉を選びながら、良くなるように発言する姿が見られた。



愛唱歌《ゆめのはな》は、各学級での練習もあり、短期間で歌詞を覚えることができた。また教員も一緒に演奏を創り上げるということになり、バンドを結成し、ギター、パーカッションなどで参加してもらうことになった。教員が演奏に加わることで、子供たちのやる気が一段と増し、熱心に歌唱活動に取り組む姿が見られた。



写真7 歌唱指導の様子（舞台上：筆者）

#### (7) 第7回 5年生との合同活動 表現力を高めるための歌唱活動

第7回は創立記念式典に参加する5年生と合同で活動を行った。ここでは校歌と愛唱歌の歌唱指導を中心に、声量の上げ方、美しい声の出し方、元気な歌声の出し方、二部合唱におけるバランスなどを指導した。ここでは、5年生、6年生、それぞれで歌い、お互いに批評しあう形で技能や表現力向上のための意見を出し合うよう促した。6年生は下学年との活動であるため、上学年としての自覚を持ち、リーダーシップを発揮していた。歌唱指導に加え、6年生が創り上げた振付をマスターし、5～6年生合同で熱心に活動を行った。ここでも録画と録音による振り返りが短時間での技能向上に効果を発揮した。



写真8 合同練習の様子

#### (8) 第8回 5年生との合同活動 120周年記念行事での発表に向けたリハーサルおよびCD制作のための録音

第8回は前回同様5、6年生合同で活動を行った。記念式典での一連の流れを通し練習を行った。校歌の二部合唱は、創立70周年当時の在校生の歌声に負けないよう、対抗心を燃やして歌唱に励む姿が見られた。愛唱歌《ゆめのはな》は、指揮者を紹介し、活動に取り組んだ。指揮は校長の青木氏がすることとなり、驚いた子供たちは「校長先生を泣かせるくらい上手くなって、式典を成功させよう」と口々に言いながら練習を行った。そして創立70周年と同様に、録音物を残すことにし、創立120周年記念CD制作のための録音を行うことにした。子供たちは録音しては聴き、意見を出し合うことを繰り返し、納得するまで何回も制限時間まで、より良い歌声を目指そうとしていた。

第8回は2時間続きで行い、2時間目は6年生のみの活動となった。式典での成功を目指して意欲的取り組み姿は、地元テレビ局および地元広報誌（タウンニュース）に取材され、子供たちはますます張り切って活動を行った。

ここで子供たちから、式典に向けて、振付が目立つような小物を作りたいとの意見が出たため、図工と連携し、式典での発表を効果的に演出する小道具の制作を課題とした。



写真9 リハーサルの様子（テレビ取材あり）



写真11 記念式典での愛唱歌発表

**(9) 第9回 120周年記念式典 活動発表 校歌・愛唱歌発表**

第9回は創立120周年記念式典での成果発表となった。式典に先駆け、全校児童および来賓を対象にした筆者の記念コンサートを実施した。ここでは、学校にゆかりのある楽曲を中心にプログラムを組み、校歌作曲者である平井康三郎の作品、また作詞者勝承夫の作品などを取り上げた。

そして校歌を全員で二部合唱したのちに、愛唱歌《ゆめのはな》を歌った。《ゆめのはな》については、1年～4年生は式典に参加できないため、コンサートと一緒に歌い踊ることとした。全校で一体となって歌い踊る姿に来賓の方々から大きな拍手が沸き起こり、感激のあまり涙を流す来賓も見られた。

続く記念式典では、後半に5、6年生による発表が行われ、校歌と愛唱歌《ゆめのはな》の披露を行った。8回にわたるワークショップおよび指導が実り、素晴らしいパフォーマンスを見せてくれた。



写真10 筆者による創立120周年記念コンサート

**5. 対外的な成果**

**(1) 報道**

本活動は文化庁事業として行い、その過程と成果は、新聞、テレビ等で報道された。

報道：朝日新聞 平成29年11月3日  
読売新聞 よみっこ 平成29年11月12日、  
11月17日

マイタウン  
タウンニュース  
J:COM ニュース  
FM八王子

**(2) CDの制作 創立120周年記念CD 愛唱歌《ゆめのはな》**

創立120周年記念として、校歌と愛唱歌《ゆめのはな》を収録したCDを制作し、記念品として学校長から全校児童および来賓に寄贈された。



写真12 記念CD 愛唱歌《ゆめのはな》

### (3) 愛唱歌記念パネル

式典参列者の来賓からは、歌詞と歌に感銘を受けたとの声が寄せられ、PTAおよび地域（館町町会）からの寄付により愛唱歌の記念パネルが体育館に寄贈された。このパネルは校歌の下に掲示され、平成29年度卒業式にてお披露目された。



写真13 愛唱歌記念パネル（右側 筆者）

## 6. むすび

小学校の創立120周年記念式典に向けての取り組みについて、その詳細と成果について述べてきた。校歌の歴史に関する講義からは、学校への愛着と伝統の再考察が見られた。また地域の学び舎としての学校の存在が、校歌の歌唱指導を通して明確になった。また愛唱歌の歌詞づくりを通しては、学校の歴史をひもとき、地域の方々への感謝を込めることが出来た。そして筆者が手掛けた作曲は、現代の子供たちの要望に合致した楽曲とすることができた。愛唱歌《ゆめのはな》の定着には、本研究での9回の教育活動のほか、日々の授業との連携、また全学年を通しては給食時に3回ずつ筆者が制作した模範CDをかけることが効果を生み出した。6年生は下級生にダンスを指導しに行くなど、積極的にコミュニケーションをとり、全学年をまとめようとする力を発揮するようになった。また6年生の活動を見た下級生は、模倣して熱心に取り組み、地域からは「下校時にいつも楽しい歌を口ずさんでいますね」との言葉が寄せられるまでになった。

また歌詞の1番に組み込んだ学校の歴史は、歌唱活動を通して、歴史への興味を引き出すことができた。周年行事に向けて、地域の方が小学校で講演を行った際、「校章と校歌はいつできたと思いますか？」との問いかけに、子供たちが一斉に「昭和39年です！」と即答し、驚かせたエピソードに表

れている。

6年生からは「みんなで考えた言葉が詰まっている。校歌みたいに長く歌っていける歌になれば、うれしい」「めったにないことだと思う。思い出にもなったし、すごく貴重な体験でした」との声が寄せられ、愛唱歌を歌い継ぐために自分たちがすべきことについて考えを深めたようである。そして3月の6年生を送る会において、5年生に愛唱歌《ゆめのはな》の楽譜を引き継ぐ儀式を提案した。

周年行事の成功には地域社会との深い信頼と連携が不可欠である。子供たちのコミュニケーション能力の向上により、伝える力が身に付き、積極的に創造し、表現することができるようになる。またアクティブラーニングにおけるグループ活動では、良いところを認め合いながら、さらなる向上を目指して意見を出し合うことで、他者への思いやりを持ちながら自分自身の意見もしっかり述べるのできるコミュニケーション能力が身につくことが明らかになった。対話の能力はグループ活動で向上し、意見を述べる中においても、良さを認めてもらえたことで自信につながり、以後積極的に活動できるよう変化が見られた。

アクティブラーニングとしてのグループ活動は、10分単位で時間を区切ることが重要であった。話し合いの中で時間の経過を認識し、一定の時間内で結果をまとめる力は、子供たちの思考力や表現力の向上と密接な関連を持っている。グループ活動においては、チームティーチングが非常に重要であった。子供たちの主体性を重んじながら、的確なアドバイスを提示など、教師の働きかけはアクティブラーニングを有意義な活動にするために非常に重要であることが明らかになった。

本研究において子供達の演奏やダンスの表現力や技能の向上には、客観的に評価することが重要であった。録音機やビデオカメラによる録画を用い、時間をおかず、すぐに振り返り、そこから次の課題を見つけ出すことが、子供たちが主体的で積極的に活動するうえで、合理的かつ効果的であることが明らかになった。ICTが発達した今の時代だからこそ、積極的に活動に取り入れるべきであると考えられる。

今回の研究を通して、学校行事における音楽的活動の役割は、多教科との連携を図り、子供たちの主体的で対話的な学びからコミュニケーション能力を育成することに大きな成果を生み出すことが明らか



になった。周年行事に向けての取り組みは、どこの学校においても10年ないし5年ごとに巡ってくるものである。そのような機会に、音楽の力で複数の教科、児童、教員、学校をまとめ、地域社会とも良好な関係を築きながら周年行事への取り組みを行うことで、学校における音楽授業の存在意義を明確にできると考える。

今後も様々な学校において、同様な取り組みの支援を行い、よりよい行事運営と音楽活動の関わりの重要性についてさらに研究を深めたいと考えている。

#### 引用文献

文部科学省初等中等教育局（2017）「平成29年度文化庁 文化芸術による子供の育成事業—コミュニケーション能力育成事業 実施要項」.注1、注2

#### 参考文献

八王子市立横山第一小学校（2017）「八王子市立横山第一小学校 学校だより 横一の風 創立記念号」平成29年11月11日発行.

八王子市立横山第一小学校（2017）「八王子市立横山第一小学校創立120周年記念誌」平成29年11月11日発行

#### 写真撮影

森田 裕 横山第一小学校コーディネーター

#### 愛唱歌「ゆめのはな」

作詞 平成29年度卒業生・補作 青木利夫

作曲 平井李枝

1 明治三年 横一は  
お寺のお堂でお勉強  
龍見 浄泉 雲光寺  
明るさいっぱい励んでた  
校舎 校庭 教室と  
村のみんなで作ったよ  
創立明治三十年 尋常高等小学校

昭和三十九年に  
校旗 校歌ができました  
山が開かれ横一は 多くの子どもが学んでた  
上館 殿入 桐田小  
離ればなれになりました

木造校舎は建て替えて  
大きなプールもできました

2 武蔵の国の八王子  
天狗の暮らす 高尾山  
めじろさえずる 湯殿川  
日本の絆 圏央道  
平成時代の横一は 校舎の歴史 宝物  
プールピカピカ気持ちいい  
今日もニコニコ歌う

オンオフしっかり授業中  
チャイムが鳴ったら外遊び  
友情 愛情 みんなの輪  
児童見守る テングット

強く 優しく たくましく  
明日に向かってさあいこう  
みんなで咲かせる 夢の花 横山第一小学校

強く 優しく たくましく  
明日に向かってさあいこう  
みんなで咲かせる 夢の花 横山第一小学校

平成30年3月30日 受理





**Musical activity and accomplishment in collaboration with  
other subjects in occasion of anniversary ceremony at an  
elementary school**

Rie HIRAI